

放送大学通信

on air

オン・エア

no. **65**

発行日 平成14年3月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

| | | |
|-----------------------------------|-------------------|----|
| 21世紀の課題 | 放送大学長 丹保憲仁 | 1 |
| 順風に乗る日本の化学 | 教授 岩村 秀 | 4 |
| 臨床心理学の実践と研究 | 教授 滝口俊子 | 5 |
| 研究室だより | 教授 宮下充正 / 教授 柏原啓一 | 6 |
| 平成14年度学部開設改訂科目紹介 | | |
| アーツ・マネジメント(02) | | 7 |
| 日本語Ⅰ(02) - 外国語としての - | | 7 |
| 平成14年度大学院開設科目紹介 | | |
| 総合情報学(02) | | 8 |
| 生命環境科学Ⅱ(02) | | 8 |
| 経営システムⅡ(02) - ヒューマン・リソース・マネジメント - | | 9 |
| 発達心理学(02) | | 9 |
| 学習センターの整備 | | |
| 東京多摩学習センターの開設 | | 10 |
| 退任のあいさつ | | |
| 教授 永野重史 / 教授 赤木昭夫 / 教授 渡邊二郎 / | | |
| 教授 平川暁子 / 大阪学習センター所長 俣野彰三 | | 11 |
| 平成14年度第1学期教務スケジュール | | 14 |
| 教務のお知らせ | | 15 |

21世紀の課題

放送大学長 丹保憲仁

近代の拡大と閉塞、そして日本

世界の人口は西暦2000年に60億人に達した。そして21世紀の終わりには100億人にまで増加し、その増加はやがて終焉に近づくであろうと考えられている。15世紀のヨーロッパ・ルネッサンスに始まるヒューマンイズム(西欧近代精神の根幹)の時代は、16世紀の帆船と大砲による世界海洋覇権の争いを経て、ヨーロッパ社会の世界化をもたらした。15世紀には、世界の総人口4億人の1/4にも満たぬ1億人弱のローカル・ヨーロッパ文明が、ルネッサンスによる人間精神の解放を跳躍の転機とし、18世紀のフランス革命と英国産業革命の成果を基に、20世紀の始まる頃には20億人の人類の殆どがそれに依ることとなる卓越文明である西欧型近代文明となった。西欧世界の物質的・政治的優位の確立は、非西欧社会の植民地化の拡大と対になって存在し、進歩的西欧文明と退嬰的非西欧文明といった図式までもが定型化するに至った。

地球は閉じた系であり、その総人口変化はS字型のロジスティック曲線的な増加を辿り飽和に至ると考えてよいであろう。18世紀始め頃を始点として急成長を始めた世界人口は最大成長速度を示す時期をすでに過ぎたが、アジアでは今が最大人口増加率を示す時期のようである。それに対して、西欧型近代文明の出発点となったヨーロッパ本体では、15世紀に中世社会構造の成長限界に至り、黒死病で人口の25%をも失い、中世社会は崩壊した。その後、西欧型近代文明は帆船に大砲を振りかざして七つの海に乗り出し、次々と植民地を獲得して世界化し、



ヨーロッパは世界の中心となったが、地域としてのヨーロッパは20世紀末には成長を止めた。今、東ヨーロッパの発展に力を注ぎつつ地域としての繁栄を維持しようとしている。

一方、我が日本は徳川時代に世界に類のない鎖国を行い、再生可能なエネルギーのみで、3000万人近くの大人人口で三つの島に籠もって閉鎖系として統一的な国土の運用を3世紀近くも行き、極めて高度な自然循環型社会の上に成熟した非工業型文明を作り出した。しかしながら最後には閉鎖系システムの構造容量限界に至って、18世紀末には飢饉や疫病で人口の3%(100万人)以上を失うに至ると共に、

蒸気機関と大砲で世界を植民地化し続けた欧米の外圧に同時に遭遇するという大国難にあって、困難と混乱の末に明治維新を行って国を開き、幸いにも植民地化を免れ、近代化に成功し、欧・米に次ぐ第三の近代中心となることができた。20世紀は、欧・米・日を含む世界の三大近代化中心を巡る世界大戦争の時代であり、西欧型近代化が極限まで進み、その限界が露わになってきた時代でもある。

21世紀初頭の日本は、その最大と考えられる1億2千5百万の人口を持つに至り、以後急速に人口減少と高齢化が進み、21世紀末には7000万人を割るとも考えられている。成長がその特徴である西欧型近代社会の中で、成熟静止に近い人口変化が推測されているヨーロッパと、さらには急速な減少が予想される日本はこれからの対応に様々な違いを見せながら、次の時代の新文明を模索し始めることになるであろう。とりわけ、成長の停止に続き急速な人口減少が予想される日本は、独自の新たな創意工夫をかさね、成長無き時代の新たな地球文明の創始者となることを不可避的に求められている。困難なことには、一超・四強といわれる現代世界の中でただ一つの超大国である米国の人口は、18世紀末から急速な成長を見せ、そのS字型成長曲線は最高増加速度の時期を第二次世界大戦直後に過ぎたにしてもまだ急速に伸びており、競争型成長社会の規範上で近代型文明社会をリードしようとしている。アジア、南米などの成長中の途上国からは、近代化志向の20世紀型（成長型）メンタリティーの強い人々を迎え入れることで米国は活力を増すことができ、それらの国々に影響を返して、アングロ・アメリカンシステムを中軸とするグローバリゼーションが進行しているのが世界の現況と思われる。イスラム社会の異なる価値観が、西欧型近代社会にとって重要な対置になるであろうことを、「中洋」という言葉を使って梅棹忠夫氏が「文明の生態史観」のなかで1967年にすでに喝破している。

われわれの生きてきた近代

西欧型近代文明の特徴は、要素原理依存型の科学技術の発展に主導された成長型の文明ということであろう。科学は物事の明確な理解の手順論であるということができ、事柄をとらえて、一定の手順に依れば、一定の結論に達する道筋をより明快に、より広い事象に適用(普遍化)しようとして、17世紀の科学哲学から発展してきた。しかしながら、ある事

象について、ある手順に従って扱いを進めれば一定の結論に明確に到達し、それが精度よく検証されることが必要であるとすれば(近代科学の要件)人間の持つ力量の範囲ではあまり複雑な事象を扱うことができない。ニュートンの力学法則が与条件を単純化して明確に成立したことを始めとして、近代科学は条件を限定して単純化した系を想定して様々な事象を解いてきた。対象が広がってくると様々な要素を扱わなければならない、科学はその煩雑に耐えず要素数や与条件(環境)を限って問題を扱わざるを得ないことから分科が起こり、問題をより精密にとらえようとより細分化することが避けられなくなる。その結果、それらに個々に対応するために科学者と称する大きな職業集団を社会は持つようになる。

一方、近代産業社会を構成する技術も教育も、問題を単純化(細分化)して初めて手順論が明確に普通の人にも理解でき、技術や行動規範の普遍化に役立つことになる。学部・学科システムによる分科(細分化)型の学習システムが近代の最も普通の社会システムとなり、分科されて単様化した産業・行政の担い手(縦割り社会の構成要素)をそれぞれの必要に応じて学部・学科システムを基本とする近代高等教育機関が生み出すことになる。4-6年といった高等教育程度で運用可能な単純(細分)化の許容と、高速大量輸送技術の格段の発達による個別産業の大型化によって、近代産業社会は大成長を遂げた。その結果、近代産業社会は様々な大型産業が並立する縦割り社会となり、行政も、教育もその分類に従って行われることとなる。

このようにして成立した近代産業化社会は、個々の産業の成長を駆動力とし、その評価は収益(価格)の量的増大となるのが普通である。個々の産業活動成長の総和が、近代国家の富と国民福祉の増大に繋がることが実感されて近代は進んできた。高速大量輸送に支援された、単様大型産業が成長し続けていくためには、経済中心域の科学技術の活性化と共に周辺に広い資源供給域が安定に存在することが必要である。17-19世紀の西欧型近代国家による植民地の拡大、19-20世紀の世界大戦争、そして現代の南北問題の発生は西欧型近代文明発展の流れの上での不可避的な事象であったように思われる。

近代産業化社会の発展のためには、要素原理依存の科学・技術の成立(職業的科学・技術者集団の発生)とその成果の効率的伝承・洗練と社会・産業の運転システムの形成(教育の専門化と高等教育の拡大)、規模拡大のための資源と市場の獲得(強国

化・大国化)とその基盤となる地球規模にまで至る高速大量輸送システムと情報・決済システムの成立とその安全保障のためのシステム等が文明の普遍的な仕掛けとして必要になり、現代世界はその様々な課題の上で「苦悶」している。総合化・複合化が求められ、複雑系が分科型科学を越えるものとして論じられる所以である。

地球環境制約の時代にあって

200年あまりにわたり近代文明の成果を享受して、人類がめざましい(異常ともいえる)成長を遂げた結果、その成長は地球の大きさの限界にぶちあたって、同じ挙動を続けると破滅以外の選択肢が無くなりそうなことに人類は気がつき始めた。1972年6月のストックホルム国連人間環境会議で、この地球はすでに単純成長を受入れ難い閉じた系であることが国際的に初めて公に確認された。地球文明史上の大転換点であり、「文明の中心部における公害」と「文明の中心部と周辺部における格差(南北問題)」が解かれるべき主要問題であることが明らかにされた。「Only one earth」がこの時に人類が得たキイ・ワードである。地球環境制約からくる近代成長型社会の閉塞に人類はどのように立ち向かっていくべきかを公式に問うことが続き、20年後の1992年6月にリオデジャネイロ・サミットでアジェンダ21が採択され、地球上の国々が具体的にどのように行動すべきかが表明されて、ストックホルム以来の議論を集約した。「持続可能な発展(Sustainable development)」がこの会議のキイ・ワードである。発展(Development)と成長(Growth)の違いをどのようにこれからの新文明の創造に際して位置付けて行動できるかが我々に問われている。成長はもう無い。「持続(Sustainable)」ということがこれから人類の規範となったことを我々は知った。

加えて、地球温暖化問題が持続可能な社会構造の制御因子として浮上してきた。近代産業社会は、化石エネルギーを解放して動力化することによって成長発展してきた。化石エネルギーの使用は結果として炭酸ガスと廃熱を主廃棄物として生み出す。大量の廃熱は地球の熱平衡の攪乱要因となる。10-100万年オーダーの長い地球的時間の中で太陽エネルギーを蓄え続けてできた化石燃料の廃熱を、わずか100年オーダーの短期間に大気圏内に大量に放出することとなった。産業革命後の近代は、通常太陽エネルギーの流入(地球常数)とその宇宙空間への

再放射のために必要な大気圏の温度に加えて、化石エネルギーからの大量の廃熱を大気圏外へ放出するため、地球の温度をさらに上昇させることになる。加えて、化石燃料の燃焼によって放出される炭酸ガスは大気圏を通して宇宙へ至る廃熱輸送の抵抗を著しく増す(温暖化ガス)。それに逆らって宇宙へ大量の廃熱を捨てるためには、熱輸送を駆動する地球上の温度を更に高くしなければならない(地球温暖化現象)。地球温暖化の進行は地上の生態系の秩序を乱し、その結果、可能なエネルギー消費(率)の限界が定まってしまう、エネルギーを多用した成長はもちろんのこと、エネルギーを多用する物質循環さえ困難になる。閉鎖系の主要戦略である物質再利用(循環)さえも強い制約を受けることになる。

一方、単純に「持続」だけを目的にして人間、特に近代の開明を経験した人類は愉快地に生き続けうるのであろうか。人間生存の価値問題が重要になる。近代人が価値とする自由と開明は近代社会の成長に支えられて存在した。近代社会の最大の価値としての自由と開明を維持しようとするれば、成長に代わるものが必要になる。それが「発展」という言葉で示されるなにがしかのものに置き換えうるか否かに我々の未来はかかっているように思う。何を「発展」させるかを、「単純な成長を否定的にとらえる」ことの上に創り上げて行かねばならないであろう。文化の次元からことは始まるに違いない。そしてそれが新文明といった新しい時代の普遍的規範となるには半世紀もしくは一世紀の時を要するであろう。世界に先駆けて人口が減少すると思われる経済大国日本は、そのことを逆にバネとして、今なお成長を論ずるアメリカン・グローバリズムに流されて破局にいたらぬように忍耐と勤勉と節約を続けながら、サステナブルな新文明を目指して思い切って集中的な人材育成への投資を創造的に始めることが肝要と思われる。人と富の蓄積を、「成長のためでなく行う」ことを肝に銘じておく必要がある。

先の明治時代に閉じた系を開き、開放系へ転換し近代化したのと逆に、今日の問題は、開放型の近代文明から価値観(文化)の違う閉鎖型の新文明へ転換(創造)することである。宇宙に飛び出す以外に人類は開放系を存続する道はない。魂の解放を宇宙大航海時代に求めることも結構であるが、人類を育み続けてきたこの地球上において、サステナビリティを積極的目標としてとらえ、止まれば退嬰的となるのが普通の人間を活性化させる高度の目標としての「発展」をサステナビリティの中にどう創り上げていくかが今問われている。

順風に乗る 日本の化学

自然の理解 教授 岩村 秀

「(社)日本化学会は、会員の中から2年連続でノーベル化学賞受賞者を出し、またこの2年間で3名の文化勲章受章者を輩出し、大変元気がいいようである。その化学会長として、最近の化学および化学会について書いてみるように」との依頼を編集委員会より受けた。

まず化学が学問として高い完成度に達してきていることがあげられる。大変面白く、多くの有能な研究者を引き付けている。原子・分子に根差したその理論は、量子力学の厳密さに支えられながらも、瑞々しく、単純明快な論理性をもっている。力量もあり、紙の上に構造式を書くことのできる分子性物質ならば、おおよそ何でも作りだすことができる。例えば、ペニシリンに始まり最新の抗腫瘍性抗生物質に至るまで、これらを作りだすことができるのは、特殊な細菌を除くと化学者だけである。

さて、2001年のノーベル化学賞は、“触媒を使った不斉合成の研究”という業績に対して、野依良治、ウィリアム S. ノウルズ、K. バリー シャープレスの3氏に授与された。糖類、アミノ酸・ペプチド・たんぱく質、DNAなど生体に関係した化学物質を構成する分子には、多くの場合左手と右手の関係にある構造があり、常にその一方のみが存在し、他方は含まれない。したがって、これら生体関連物質を人工的に合成するには、いずれか一方だけを作り分けなければならない。化学者が行う普通の合成法では、左手と右手の分子が両方同じ割合でできてしまい、後から必要な方だけを分離する必要がある。または、高価な左手または右手分子を原料の一つに選び、これに化学修飾を加え、合成が行われてきた。これを不斉合成という。今回受賞の触媒反応では、極くわずかな量の右手(または左手)分子が、大量の不斉合成を媒介するというものである。

従来医薬品の多くは、左手系かまたは右手系のみが薬効をもち、反対のものは作用がないとされた。通常の合成では両系の分子が同じ割合でできてしまうが、比較的廉価なのでそのまま医薬品として使うことが承認されてきた。不幸なことに、サリドマイドとよばれる薬は、右手系が優れた抗うつ薬であったが、作用はなくとも無害と思われた左手系に催奇形性があり、両者を等しい割合で含む薬を服用した妊婦から先天性四肢欠損症児が生まれた。この10年間で米国食品医薬品局および我が国の厚生労働省



写真:日本化学会会館入口ロビーに設けられたノーベル賞受賞会員顕彰プレートを囲んで。
左から野依良治次期会長、筆者、故福井謙一令夫人、白川令夫人、白川英樹氏、村橋俊一前会長。

は、左手系かまたは右手系が薬効をもつ分子のみからなる薬しか認められないようになってきている。このニーズに応えるには、触媒を使った不斉合成が普遍性をもっており、日本の化学者が世界をリードしている分野である。このように、人体に悪影響を及ぼす可能性がある医薬品の製造とか、産業の生産過程で環境に排出され害を及ぼすいわゆる公害問題の反省に立脚し、化学会は環境憲章'99を策定し、産官学一丸となって環境の保全・安全の確保に立ち向かう「グリーンケミストリー」の追求を標榜している。

卑金属元素を使って金を作り出そうとした錬金術師の精神が脈々と生き続けているのも現代化学の特徴であろう。金色の高貴な光沢をもち錆びない金属であれば、金でなくても構わなかった。導電性はもっぱら銅などの金属の属性であった。その原理を追求すると、共役ポリマーのドーピングで導電性高分子が実現しても不思議ではなく、また条件が整うと、超伝導が実現するようになっていく。また鉄・コバルト・ニッケルなどの属性であった強い磁性を、有機フリーラジカルでも出すことができるようになった。化学は、21世紀の最初の10年間には、ナノテクノロジーや生命科学の分野で主要な役割を演じると考えられている。広い周辺領域をもつのが特徴である。

(社)日本化学会は来年125周年を迎える。創立は実に明治11年であり、学術団体としては我が国で最も古い。全国の大学・学校・研究所・産業界で化学および応用化学の研究・教育・実務に携わる者3万6千人を会員としている。学術団体としての学会の原点は、研究者が研究発表を行い情報・意見の交換を行う場を整備することにある。世界各国との情報発信はもとより、国際的な各種データの集積に協力している。5年に1度日本、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの化学会が共同して環太平洋化学国際会議を主催している。アメリカ化学会と日本化学会は、2002年から会員を共有する新しいプログラムの試行に入った。いずれも会員が日本に限らず、世界を股に掛けて活動し、その活動が常に国際的評価に曝されていることを示している。日本化学会はまた、一般社会人の化学に対する理解を深め、次世代の若者の化学離れを防ぐ教育ならびにその他多くの社会的問題にも積極的に取り組んでいる。

臨床心理学の実践と研究

臨床心理プログラム 教授 滝口 俊子

こころの専門家「臨床心理士」が任務に携わるに際して、その基盤となっているのが臨床心理学です。臨床心理学は、心理臨床の活動によって検証されつつ、発展してきました。心理臨床という実践と不可分であるところに、臨床心理学の特徴があります。

心理臨床には、種々の領域があります。教育、医療、福祉、司法、産業場面、そして個人開業における心理臨床もあります。

どの臨床場面においても共通して行われているのが、人として真に出会う面接です。遊びを主とする遊戯療法、対話によるカウンセリングや心理療法、夢分析、非言語的な表現活動を大切に箱庭療法や芸術療法、動作療法や森田療法も行われています。

面接の形態には、一対一による個人面接と、グループダイナミクスを活用する複数のメンバーによる面接があります。

また、来談者を的確に理解するためのアセスメントも、心理臨床の大切な仕事であります。知能検査、性格検査など、各種の心理検査が開発されてきました。

臨床心理学が、生きた人間と人間との出会いによって構築されてきているということは、心理臨床に携わる臨床家自身に、探求的な視座を要するということとなります。人間には得意・不得意があって、研究の能力の優れた臨床家、研究には関心が薄いけれど臨床の力は抜群という人もいます。また、心理臨床家は日々の臨床にエネルギーを要するために、研究業績を挙げにくいという困難もあります。

臨床心理学における研究法として、最も有効な方法が「事例研究」

であります。医学においても事例報告はなされてきましたが、臨床心理学の事例研究は、これまでの科学における事例報告とは大きな違いがあります。心理臨床の事例研究では、「臨床家自身」が含まれているところに特徴があるので、クライアントとセラピストとの「関係性」に支えられて、心理臨床の面接は進んでゆくからです。

従来の科学においては、研究者が自分と事象とを切断したところで研究が行われてきましたが、心理臨床の研究は、面接における臨



床家自身の存在が問われているのです。面接者を含めての「全体性」が、心理臨床の鍵であり、臨床心理学の研究対象であります。

研究対象と研究者を切り離した方法とは異なり、クライアントと面接者の関係を切らずに真実を探求するところに、臨床心理学における研究の特徴があります。

調査研究なども臨床心理学の研究方法として意義がありますが、事例研究が臨床心理学の中核的な研究法といえます。守秘義務やプ

ライバシーへの配慮という重要な課題に直面しつつ、研究が行われているのです。

従来の科学とは異なる研究法の臨床心理学に、最近、学生たちが強い関心を向けています。不況の時代、資格を求めると言われていますが、ある時、臨床心理学専攻の学生たちと話し合っていて、ハッと気づいたことがありました。

それは、河合隼雄先生を我が国における臨床心理学第一世代と呼ぶなら、次くらいに当たる私たち世代は、人のために役立つ仕事としての臨床心理学にひかれたものでした。職業としては、まだまだ完成されていない時期ではありましたが。

ところが、今の学生たちは、自分自身のことを知りたい、自分のために役に立つかもしれないから、と臨床心理学に魅力を感じているのです。

分析心理学のユングは、中年以降の課題として個性化に注目しましたが、今や青年期においても自分自身に強い関心に向けている人が多いのです。昔から若者は人間の生き方への探求から哲学や文学にひかれていたことを思えば、現代の青年が臨床心理学に関心に向けていることは特殊ではないとも思います。

それにしても、これほどの臨床心理学の流行現象は、やがて落ち着き、下降する時がくるかと思えます。その日までに、臨床心理学が真に役立つ学問として定着しなくてはならない、と思っています。

人間が生きているという課題に直接関わる学問分野に、私の人生をかけて取り組む意義を、いっそう感じている昨今です。

からだを動かす能力

からだを動かす能力(運動能力)は、誕生してから成長とともに向上し、30歳をすぎるところから加齢とともに衰退していく。このことから、運動能力は本質的には遺伝的要因によって規定されているといえる。他方、骨折したため動かないようにと関節がギプスで固定されると、筋肉が発揮できる力はたちまち衰える。対照的にウエイト・トレーニングを始めると筋力が増強される。このように、運動能力は、環境的要因によって相当な部分変容される。すなわち、動かなければ動けなくなり、適当に動かしていけばからだは遺伝的限界まで動けるようになる。

からだを動かす能力の判定は、

2つの視点からなされる。1つは、からだを動かした“できばえ”のバイオメカニカルな分析にもとづいてなされる。もう1つは、からだを動かす“身体資源”としての生理学的能力の測定にもとづいてなされる。

いずれにしても、からだを動かす能力の向上と衰退という相反する現象は、興味ある研究対象である。例えば、一流スポーツ選手にみられる高度な能力については、世界記録が破られるたびに、なぜなのかという新しい疑問がわいてくる。これは、人間の能力の限界を追求する夢のある研究である。他方、高齢者に求められる介護を必要としない能力を保持するため

生活と福祉 教授 宮下 充正

の方策を明らかにすることは、老人医療費との関連から現実的な重要研究課題である。



平成14年度学部開設改訂科目紹介

アーツ・マネジメント(02)

アーツ・マネジメントでは、いわゆる芸術活動に関するマネジメントについて講義する科目である。元々西ヨーロッパやアメリカにおいて、しかも、ファインアートやパフォーマンスアートを中心に発達したもので、日本において本格的に導入されたのは、1980年代になってからであった。それは、美術館の建設ラッシュ、文化ホールの建設ブーム、という行政主導、中央政府主導で文化的環境が整備されていった時期でもあった。90年代に入って、いわゆるバブル経済が崩壊した後、厳しいながらもアーツ・マネジメントは着実に

浸透してきたのである。

本講義では、対象を単に学生に限らずに、広く関心を共有する芸術活動関係者や一般的視聴者をも想定している。内容としては、アーツ・マネジメントの歴史と定義、組織論理的アプローチ、経済

駒澤大学 教授 川崎 賢一
立命館大学 教授 佐々木 雅幸
同志社大学 助教授 河島 伸子

学的な意味、文化行政とのかかわり、都市政策との関連、マーケティングや鑑賞者開発の観点、各論(美術・音楽・演劇など)、ポピュラーカルチャーや新しいデジタルアート、等を順次取り上げていく予定である。



左から、川崎教授、佐々木教授、河島助教授

人間学に明け暮れて

4月から始まる大学院の担当科目「総合人間学」の準備に明け暮れた一年間でした。

私の研究は実存主義哲学が中心であり、その関連で、ドイツ観念論、歴史哲学、解釈学、現代神学を扱い、また近代哲学史の包括的把握を手掛けてきました。そこで、今回「人間学」の講義を担当するにあたっては、現代の代表的な人間哲学である実存思想を中心に話を進めようと考えました。しかし、人間学を表看板に掲げる場合には、シェラーに源をもつ哲学的人間学を名乗る流れがあり、また、カントやフォイエルバッハなど、人間学の発想に深く関わる哲学者もいて、これらの哲学への目配りも欠かせません。そこで、改めて

「人間学」をキーワードにしなが、これらの哲学を読み直す作業に入りました。

シェラーの場合には、倫理学や宗教哲学として著作を読んだことはあるのですが、人間学として取り組むのは初めてです。カントにしても、ディルタイにしても、人間学を意識して読み直してみると、新しい目が開かれ、楽しい経験をしました。これまで余り読む機会のなかったプレスナー、ゲーレン、ラントマン等の哲学的人間学については、十分に読みこなすまでには至りませんでした。講義への取り込みはできたと思っています。

私自身の構築する総合人間学の腹案もないわけではありません

人間の探究 教授 柏原 啓一

が、まずは人間学について哲学史的アプローチをお伝えすることにしました。受講者諸賢の反応が楽しみです。



日本語 I (02) - 外国語としての -

人間の探究 教授 姫野 昌子
早稲田大学 教授 吉岡 英幸
東京外国語大学 助教授 伊東 祐郎

最近、日本語の上手な外国の方々が多くなりました。しかし、会話はできても、本を読んだり、論文を書いたりできる人は、まだ限られています。日本に住んでいれば、会話力は、ある程度つきませんが、読み書きの力は、学習しなければ、つきません。

日本語は、入門・初級レベルと中級・上級レベルの隔たりが大きく、その差を埋めるのは容易ではありません。漢字語彙の用法、書きことばと話しことばの違いなど学ぶべきことが多く、そのレベルの教材は、まだ不十分です。

それで、当科目は、最も必要な部分に焦点を絞りました。知的な活動ができるような日本語の基礎力をつけることを主眼としました。文法、漢字語彙、書きことば

と話しことばのスタイルの習得を中心に据えています。

テーマは、「日本の風土、ごみ資源化、防災体制、ロボットの研究、男女共同参画、IT時代のビジネス、子どもたちの読書離れ、メディアと社会」など現代社会について取り上げました。放送大学やNHK番組の映像教材のほかに、のべ14か国の留学生と日本人学生のディスカッションや留学生によ

る有識者インタビューも行いました。印刷教材には、これらのスクリーンがルビつきで全部のっていますので、復習もできます。

日本の歌や祭り、各地の風景、文化人の絵・自筆の書などの紹介も試み、楽しみながら、学べる日本語番組を目指しました。国際化時代の日本社会のために、知日派の外国人日本語学習者が1人でも多く増えることを願っています。



左から、吉岡教授、伊東教授、姫野教授

平成14年度大学院開設科目紹介

総合情報学(02)

急速に発展している情報技術は、現代の情報化社会を支えつつ社会全体に大きな影響を与えています。広く産業、経済、政治、教育、芸術、文化等における知的活動は、質的に変容しはじめているのです。

この総合情報学が目ざすものは、社会の諸活動における知の営みと情報の関係を正しく理解することです。つまり、21世紀に生きる私たちにとって、文系・理系の区別なく必要とされる広義の情報リテラシーを幅広く身に付けることが目的です。

講義では、情報技術の発展、産業と生産の情報化、情報と経済、情報と法律、脳と身体性、情報装

置としての人間、情報化時代とメディア、情報化社会の教育、ネットワークコミュニティの組織論、情報と生命科学、情報と生命論等の課題を取り上げていきます。

このように総合情報学は、総合的な、また、入門的なオムニバスの講義で行います。毎回、課題を



左から、中島教授、原島教授、佐倉助教授

総合文化プログラム 文化情報科学群 教授 中島 尚正
 東京大学大学院 教授 原島 博
 東京大学大学院 助教授 佐倉 統

変えて最新の興味深い内容を提供しますが、各回の細部を全て理解しなければならない、というものではありません。各回の内容の細部にこだわることなく、全体として、情報化が知の営みに及ぼしている現象の見方、理解の仕方を学んで欲しいと思います。

生命環境科学Ⅱ(02)

生命環境科学Ⅱでは、生命の起源およびその後の生物の進化によって、環境がどのような役割を果たしたか、また、逆に生物の進化が環境にどのようなインパクトを与えつつあるかに焦点を当て、主任講師の私を含めて6人の講師で講義を行う。ここでとり上げる「環境」は、生物をとり巻く無機質な環境だけではない。生物体を構成するタンパク質などの分子にとっては、細胞が環境の意味をもっているし、多細胞生物を構成する個々の細胞にとっては生物個体が1つの環境である。さらに、個体にとっては他個体もある意味では環境の役割を果たすことになるし、種という立場からすれば、異種生物も重要な環境要素である。

各回のテーマおよび担当者(所属)は以下のとおりである：第1回「生物進化の場としての環境」石川統(放送大学)、第2回「原始地球環境と化学進化」山岸明彦(東京薬科大学)、第3回「生命の起源とRNAワールド」石川統、第4回「環境としての細胞」石川統、第5回「酸素と生物」石川統、第6回「真核細胞の起源」石川統、第7回「多細胞生物と環境」石川統、第8回「葉緑体からみた植物の進化」黒岩常祥(東京大学)、第9回「極限環境の生物たち」山岸明彦、第10回「捕食・被食関係と進化」松本忠夫(東京大学)、第11回「寄生：食住環境としての異種生物」深津武馬(経産省・産総研)、第12回「共生と共進化」

深津武馬、第13回「細胞内共生」石川統、第14回「環境と遺伝子」三谷啓志(東京大学)、第15回「環境に働きかける生物たち」松本忠夫



総合文化プログラム 環境システム科学群 教授 石川 統

経営システムⅡ(02)

- ヒューマン・リソース・マネジメント -

ヒューマン・リソース・マネジメントという用語は、たんに「人事・労務管理」という伝統的な用語を横文字にしたものではない。日本語にしいて訳せば「人材活用戦略」とでもいうことになるだろう。1980年代の初めに、ハーバード大学のビジネス・スクールで初めて開設された科目の名称である。当時、アメリカでは、日本の鉄鋼、自動車、電機、工作機械などの競争に押されて、産業空洞化の危機にさらされていた。いわゆる日本的経営の最盛期で、日本の長期雇用システムや年功的な処遇制度の長所が注目され、その根底にある長期的な企業成長重視の経営戦略の長所が重視された。

しかし、皮肉なことに、それから20年経った今日、グローバル化とIT化の荒波の中で、

今度は日本の産業空洞化が進み、経営戦略の再構築を迫られている。中国や東南アジアが世界最新の技術と低賃金を統合して世界市場で競争してくる時代には、経営戦略全体の再構築が必要であり、それに合わせて、人事・労務の制度全体も見直さなければなら

ない。この講義では、これまでのHRMの講義と異なり、労働経済学、労働法、人事労務管理の3つの専門領域にまたがる4人が共同分担して、学際的な立場からグローバル競争時代の人材活用戦略を考える。



左から、神代教授、山口教授(予定)、八代助教授

発達心理学(02)

「発達心理学」は大学院の「教育開発プログラム」と「臨床心理プログラム」の両方に共通する科目です。教育開発プログラムは専修免許の申請が可能になるように組まれており、臨床心理プログラムは心理療法や心理アセスメントを中心にして、将来カウンセラーとして働くための知識や技能の習得に力点が置かれた構成になっております。どちらのプログラムも、人間発達について深く理解することが専門的な学習に入るための出発点になると考えられますので、講義のねらいを次の3点に定めることに致しました。第一に、「人間発達の可能性は大きい」「何事も遅すぎるといえることはない」というメッセージが受講生に伝わるように、「生涯発達」「生涯学習」の視点に立って、人間の発達を、

気質、感情、対人関係、自己意識、言語、思考などの諸相から最新の知見を通して描きだします。第二に、修士論文作成のための研究を行うための研究方法論の習得が求められますから、各自の問題意識を具体的な研究に組み立てるための代表的な方法論を「研究ノート」のコーナーで解説しました。このコーナーをヒントにして、受講生の問題関心やフィールドにみあった研究計画と方法を工夫され、研究を実施していただく。第三に、大学院修了後、受講生は実践活動を通して「実践知(現場で通用する技能や方法論)」を磨いていくことが求められますが、将来、教育現場やカウンセリングの現場で直面するであろう具体的な問題に対処するための基礎的方法として、基礎的・先端的な知見を「実

践知」に結びつけられるように講義を進めて参ります。この講義を受講することにより、最終的には、人間の発達過程について共感的な理解や洞察が得られることを願っております。



お茶の水女子大学大学院 教授 内田 伸子

東京多摩学習センターの開設

- 4月より学生の受入れ開始 -

東京多摩学習センター所長 中島 尚正

放送大学の50番目の学習センターとして、昨年10月に東京多摩学習センターが開設されました。場所は一橋大学の小平キャンパスです。以前は一橋大学の教養課程の学生が学んでいた場所で、武蔵野の面影をよく残している自然の豊かな環境です。学習環境として申し分のない大変素晴らしいところですよ。

建物はこの1月末に完成しました。キャンパスの正門を入ると真正面に見える4階建ての親しみやすい建物で、3、4階を学習センターが使います。この完成を機に、2月14日に開所式を挙行し、16日に東京都・小平市教育委員会の後援のもとに公開講演会を開催しました。

この学習センターは東京で4つ目のセンターとなります。これまでの東京の3つの学習センターは、いずれも23区内にありました。多摩地区は東京の人口の4分の1を占めていて、生涯教育に熱心であることから、この地区に東京で4番目のセンターが設置されることになりました。東京の多摩地区だけでなく埼玉県西武沿線の方々にと

っても、交通の便が良くなったことと思います。なお、この学習センターの最寄駅は国分寺駅(JRおよび西武)から西武多摩湖線で1つ目の一橋学園駅です。

放送大学は今年の4月より大学院の講義も始めます。この学習センターは、大学院の教育にも適した図書室や諸設備を整え、また、設備の新しさを生かして時代をリードするような情報処理教育を実現したいと考えています。

建物の1、2階には一橋大学の国際交流施設が入りますが、多摩地区には多数の外国人が住んでいます。放送大学の外国人向けの日本語教育も活用していただきたいと思っています。

多摩地区には、小平市をはじめとして30余りの市町村があり、一橋大学、東京学芸大学の他にも多数の大学や学校があります。これらの自治体や教育機関と連携を深めて、公開講座や公開講演会なども積極的に企画していきたいと考えています。

21世紀に誕生した東京多摩学習センターを、積極的に利用されることを願っています。



退任のあいさつ

卒業しますありがとう

発達と教育 教授 永野 重史



放送大学には、小学生のように6年いて退任するので「卒業」という感じがしています。着任以前、昭和61年度にも「児童の心理と教育」のラジオの講義を8回していますし、それ以前の実験番組の段階でも、志摩のほうの若衆宿のようすや、東北の一型アクセントをもつ方々の「橋・箸・端」の聞き取りかたを紹介したテレビ講義を楽しく制作していたので、放送大学は、私にとって非常になつかしいところとして、いつまでも長く記憶に残ることでしょ(と言っても生きている間だけのことですが)。

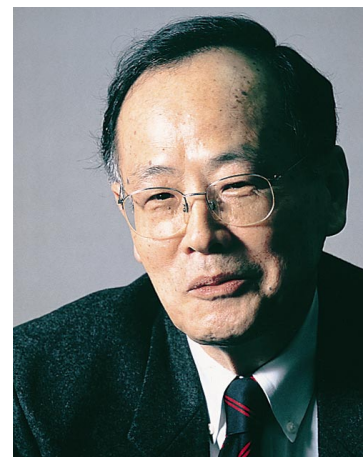
以前の「児童の心理と教育」は先輩でもある東京大学の東洋教授とご一緒でしたが、ピアジェの発達段階論にかなり寄りかかっています。当時すでにピアジェの発達段階論は批判されていましたが、その後、それは完全に誤りであると判断されるようになりました。学習についてもネズミの実験をもとにした学習心理学でヒトの学習を考えてはいけないという考えが優勢になりました。ところが、大学の教科書の内容は古い。新しいことを書くと教える先生が困るので売れないのです。また、内容は

古くても売れ続けるのが本屋さんにとっては「ありがたい教科書」なのです。私は、放送大学ならば、世界の学界の水準からあまり外れない内容を盛り込めると考えました。また、共著で分担を決めると、内容が時代遅れのものになる傾向があるので、できるだけ独りで書こうと決心しました。その結果、執筆に手間取り、皆さんにご迷惑をおかけすることになりました。申し訳なく思っております。また、放送大学以外の大学で私の教科書を使った方からは、程度が高すぎるという感想をいただきました。読み流すことができないということですが、大学の教育は、学生に考えさせることではないかと、私は考えています。「教育の中の言葉」については、放送大学の学生さん達からも、「言葉について、学校では全く教わらなかったことを学び、考えることができた」という感想をいただきました。独り善がりかもしれませんが、充実した気持ちを抱いて、私は「卒業」していきます。

皆さん、ほんとうにありがとうございました。

いよいよこれから

産業と技術 教授 赤木 昭夫

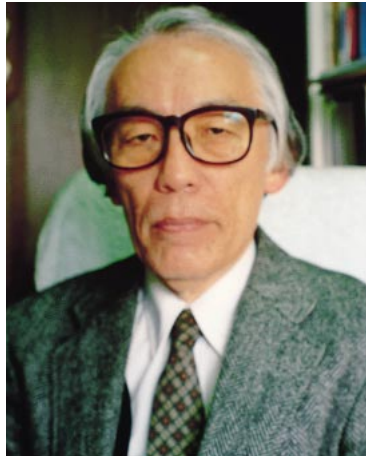


福井と長崎の学習センターでの面接授業、放送大学の学生さんでなければ絶対にとりあげられないようなテーマの卒業研究(明治11年富山県魚津電信局開設と北前船の電信利用とか、雷予報ビジネスのフィジビリティといったテーマもあった)など、けっこう楽しませていただきました。

お互いさま学習する条件は何かときびしいものがありますが、ひ

とたび学習に飛び込めたあとは、「楽しくなければ学問ではない」と私は思ってきました。放送大学でもその信条で貫きとおせました。

それもひとえに、学生の皆さんをはじめ、番組制作スタッフの皆さん、学生の皆さんと話し合いやすいように気配りして下さった学習センターの事務職員の方々、あるいは図書館の司書の皆さんのお蔭と、深く感謝しております。



ありがとうございました。

最後の制作となった「技術の分析と創造」では、歯車時計の脱進装置や、ライト兄弟があげた凧と風洞などの再現実験に挑戦しました。番組制作スタッフの理解と支援で、長年の懸案を解決できました。これらについては特記して、感謝いたします。

充実した10年間

私が放送大学に専任教授として着任してから、この3月でちょうど10年の歳月が過ぎたことになる。しかし私は、その着任の5年前から、すでに客員教授としても放送大学で活動していた。加えて、この3月に定年で退任した後も、既設の幾つかの私の授業科目は、放送大学教養学部の放送授業として、なおも数年間は履修可能であり続けるはずである。それどころか、すでに制作し終えた私の最後の授業科目「自己を見つめる(02)」は、人間の探究専攻の専門科目として、この4月以降にようやく開講の運びになる予定である。したがって、放送大学と関わる私の研究教育上の活動は、専任教授としての10年を越えて、もっと永くに及び、私の人生のなかでも相当の年月にわたるものとなる。

けれども、この10年間における専任教授としての活動をとおして初めて、私は、放送大学の仕事に

戸惑い・感謝・喜び - 放送大学の13年

昭和から平成に代わった1989年4月、放送大学に着任いたしました。4月末、第1回の卒業式が行

これからは、20世紀の科学と思想の歴史といった、ドンキホーテ的なテーマに取り組むつもりです。そこではとくに、遺伝・免疫・脳などを対象に「生命とは何か」について、20世紀の科学はどうくいきがったのか、それを勉強したいと願っています。いよいよこれからです。

人間の探究 教授 渡邊 二郎

関して、あらゆる面で、ほんとうの意味で、その内側からする深い理解を形成することができたと思う。また、それに応じて、私は、放送大学における生涯学習というこのきわめて重要で有意義な仕事に関して、私なりの仕方、思う存分の寄与を果たすことができたことと内心密かに自負している。そうした意味で、この10年間は、私にとってかけがえのない貴重な経験の年月であったといえる。そうしたなかで何よりも私にとって嬉しくまた有意義であったのは、学習意欲に満ちあふれたきわめて数多くの学生さんたちと、授業科目や面接授業や卒業研究などで出会うことができた点である。その素晴らしい充実した体験の数々を深く心に銘記しながら、私はさらに今後、私なりの仕方、人生観・世界観の学問的探究の道を進んでゆきたいと考えている。

自然の理解 教授 平川 暁子

われ、それを終えて初代学長の香月秀雄先生が退任されるという変転の時でした。躍動感がありまし



た。私自身は第二次大戦の終わりを経験し、その後の学制改革の波に揉まれた経験もありますので、多少のことには驚かない筈だったのですが、それまでの大学生活では経験したことのない事々が始まりました。放送授業の制作も大きな戸惑いでしたが、ディレクターの方々のご協力に感謝しながら何とか乗り越えました。優秀で熱心な学生さんにも出会うことができました。社会での責務を果たしながら真剣に学習に取り組む人が存在するという事を知ったのは、驚きであり喜びでした。障害を持つ学生さんが実験に参加できない事実を知り、視覚障害を持つ方のための実験面接授業を始めて、熱

心で楽しそうな学習に接したのも嬉しいことでした。その際には多くの方のご協力を得ることもできました。そしてまた、専門分野の異なる先生方とお話する機会が得られたのは、放送大学ならではの事だったと思います。初期の戸惑いを克服して2年、千葉学習センターを所長としてお手伝いすることになりました。放送大学のことが漸く判ったと思っていた時だけに、学習センターを実感せずに放送大学を理解したとは言い難いことに気づきました。センターの方々の熱意なしには大学はないと。13年間多くの方々にお世話になりました。ほんとうにありがとうございました。

地域の大型学習センター

大阪学習センター所長 俣野 彰三

「オン・エア」には何回かお世話になりました。今回は地域学習センターについての所感を記して退任ご挨拶にかえさせて頂きませぬ。平成9年4月着任に当たり、前任(初代)片山俊先生より大阪学習センターの緊急課題として、①設置場所が未だに定まらない、②学生数が2,500名に達したのに全科履修生入学不可のため、何百名もの卒業希望者が南関東の諸センターに移籍して「暫定措置(ビデオ学習センター)」の限界だ、と承りました。

結果としてこの2つの課題は私の在任5年間で決着しましたが、南関東とそれ以外の学習センターという「一つの大学内での二重構造」のひずみは、センターとしての規模が大きいだけに大阪では悩みのたねです。専任教員数の絶対不足が解消されない限り、教育面でのひずみは緩和されそうにもありませんが、とにかく学生諸君に

それがはねかえらないように配慮する事が只今の運営の現実です。面接授業を例にとりましても、日常、放送授業を行う教員自身が中心となってこれを担当するのが本来と思いますし、実際、ビデオ学習センター時代の大阪では毎学期7科目のうち、3科目は放送大学専任教員にお願いして学生諸君に大変喜ばれていました。

最近、卒業研究に関する学生相談で、将来、大学院生として師事を仰ぎたいと願う専任の先生に卒研指導を熱望する学生が増えています。地域の大型学習センターの立場としては、大学院設置は卒業研究制度見直しの機会を招来したように思われます。

最後になりましたが理事長、学長はじめ学園の皆様より賜りたまらずかざのご高配に対し厚くお礼申し上げますと共に、放送大学の益々の発展を祈念いたします。

平成14年度第1学期教務スケジュール

教務のお知らせ

学部（教養学部）

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 第1学期の学習 | 1(月) 28(日) 6(月) | | | 21(日) 22(月) | | 30(月) |
| | 放送授業期間 ゆりの期間 13(土) 28(日) | 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 1(土) | 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 7(金) 必着 | 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 30(日) | 集 中 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 6(火) 21(水) | 集 中 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 30(月) |
| 第2学期の準備 | 面接授業(毎週型・土日型) 13(土) 28(日) | 面接授業(毎週型・土日型) 1(土) | 面接授業(毎週型・土日型) 7(金) 必着 | 面接授業(毎週型・土日型) 30(日) | 面接授業(集中型) 6(火) 21(水) | 面接授業(集中型) 30(月) |
| | 下旬~上旬 通信指導の送付 | 通信指導提出 3(金) 消印 | 通信指導提出 7(金) 必着 | 通信指導提出 17(月) 24(月) | 通信指導提出 25(木) 31(水) | 通信指導提出 30(月) |
| 第2学期の準備 | | | 15(土) 消印 | 15(木) 必着 | | |
| | | | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) |

1. 平成14年度放送大学大学院文化科学研究科 修士全科生 入学者選考結果

高度専門職業人の養成を目的とする放送大学大学院(第一期生)に、577人が合格しました。

(1) 合格者の概要

年齢層は、30～40歳代が約6割を占め、職種では、会社員・銀行員等が約3割、教員・公務員がそれぞれ約2割、無職(主婦を含む)が約1割でした。

他大学卒業者が約6割強を占め、放送大学卒業者は約3割でした。

なお、本学の実施する出願資格事前審査(4年制大学卒業等の資格を持たない方の出願資格の審査)を経て合格した者は6名です。

(2) 入学者選考状況

平成14年度より初めて学生受入れを行う放送大学大学院では、修士の学位の取得を目指す修士全科生(入学定員:500人)について、第1次選考(書類審査)、第2次選考(小論文試験、口頭試問)を実施し、合格者を決定。可否通知は、12月14日(金)に本人宛、発送しました。

| プログラム等 | 総合文化 | | 政策経営 | 教育開発 | 臨床心理 | 計 |
|----------|------------|------------|------------|------------|---------------|--------------|
| | 文化情報科学群 | 環境システム科学群 | | | | |
| 募集人員 | 140人程度 | 130人程度 | 130人程度 | 60人程度 | 40人程度 | 500人 |
| 出願者数(倍率) | 462人(3.30) | 354人(2.72) | 582人(4.48) | 403人(6.72) | 2,256人(56.40) | 4,057人(8.11) |
| 合格者数 | 156人 | 152人 | 152人 | 73人 | 44人 | 577人 |

大学院(文化科学研究科)

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 第1学期の学習 | 1(月) 28(日) 6(月) | | | 21(日) 22(月) | | 30(月) |
| | 放送授業期間 ゆりの期間 13(土) 28(日) | 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 1(土) | 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 7(金) 必着 | 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 30(日) | 集 中 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 6(火) 21(水) | 集 中 放 送 授 業 期 間 ゆりの期間 30(月) |
| 第2学期の準備 | | | 15(土) 消印 | 15(木) 必着 | | |
| | | | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) | 平成14年度第2学期出願 (平成14年度第1学期で学籍切れの学生) |

平成15年度修士全科生学生募集要項は6月15日(土)から配布を予定しています。

修士全科生入学者選考についての日程等詳細は平成15年度修士全科生学生募集要項を入手し確認してください。

2. 日本育英会奨学金の貸与

日本育英会では、学力が優秀でありながら経済的理由により修学困難な学生に対し、奨学金を貸与しています。教養学部生及び大学院生に対する募集手続き等は以下のとおりです。

(1) 教養学部生

- 対象となる学生 全科履修生で面接授業を履修している方が対象となります。
- 奨学金の種類 第1種通信教育奨学生 無利子、返還の必要有
- 募集時期 各学期毎(4月、11月頃)
- 貸与期間 採用された年度限りです。ただし、次年度には再び出願できますが、全在籍期間で4回の貸与を限度とします
- 貸与額 年額85,000円

(2) 大学院生

- 対象となる学生 修士全科生
 - 奨学金の種類
 - 第1種奨学金 無利子、返還の必要有
 - きぼう21プラン奨学金 有利子(在学中は無利子、修了後は3%を上限とする有利子)、返還の必要有
 - 貸与期間 採用された年度の4月から標準修業年限まで
 - 貸与額
 - 第1種奨学金 月額85,000円(参考:平成13年度入学者)
 - きぼう21プラン奨学金 月額5万円、8万円、10万円、13万円から選択
- 募集や申請については、学習センターにおいて掲示等により周知します。

3. 北野生涯教育振興会奨学金の給付

財団法人北野生涯教育振興会では、放送大学において教養学部を選科履修生及び大学院の修士全科生として在学する学生で、生涯学習という観点に立ち、新たに知識を吸収しようとする学習意欲のある社会人を対象として奨学援助をしています。

(1) 教養学部生

- ・対象となる学生 選科履修生（30歳以上の方、または現在会社・官公庁・学校に在職し、実務経験5年以上の方）ただし4月入学者のみ対象です。
- ・給付額等 1名当たり年額50,000円で1年限りです。（返還の必要はありません。）
- ・給付条件 第1学期末に「状況報告書」及び第2学期に成果をまとめた「論文」の提出が必要です。

(2) 大学院生

- ・対象となる学生 修士全科生（30歳以上の方、または現在会社・官公庁・学校に在職し、実務経験5年以上の方）
- ・給付額等 1名当たり年額100,000円で1年限りです。（返還の必要はありません。）
- ・給付条件 第1学期末に「状況報告書」及び第2学期に成果をまとめた「論文」の提出が必要です。

申請の手続きは、直接財団へお願いします。詳しくは学習センターに掲示してある募集要項を参照してください。

4. 平成14年度第2学期からの町田ランチ試験場について

平成14年度第2学期から、会場の都合により、町田ランチ試験場は現在の町田経理専門学校(東京都町田市中町2-20-3)から、東京女学館大学(平成14年度開設予定、東京都町田市鶴間1105)に移転する予定です。

継続して町田ランチ試験場で受験されている方で、平成14年度第2学期から、新しい町田ランチ試験場での受験を希望されない方は、単位認定試験受験センター変更の手続きが必要です。

5. 本学大学院で修得した単位の取扱いについて

全科履修生が在学期間中に、本学大学院修士科目生として修得した単位を学部の卒業要件単位として認定することができます。この場合の取扱いは以下のとおりです。

(1) 認定にあたり申請手続きが必要です。

申請期間 4月1日～5月31日（必着）〔第1学期（9月）に卒業見込みの場合〕
10月1日～11月30日（必着）〔第2学期（3月）に卒業見込みの場合〕

- (2) 利用上限単位は、他の大学等で修得した単位と併せて30単位です。
- (3) 認定された単位は所属専攻以外の専門科目区分となります。
- (4) 学部の卒業要件単位として申請し認定された単位は、大学院修士全科生として入学した場合、修了要件となる単位として使用できません。

なお、申請書その他詳細は学習センターまたは大学本部修学指導課までお問い合わせください。

大学通信編集委員会

(平成13年度)

| | | |
|------|-----|------|
| 委員長 | 教授 | 阿部 齊 |
| 副委員長 | 同 | 森谷正規 |
| 委員 | 同 | 長岡亮介 |
| 〃 | 助教授 | 臼井永男 |
| 〃 | 同 | 星 薫 |
| 〃 | 同 | 島内裕子 |
| 〃 | 同 | 杉森哲也 |

(編集事務担当)

教務部修学指導課)

編集後記

美しい花を咲かせようと思ったら、枝葉を大きくしすぎてはいけない。季節によっては、長期間水を与えてはいけないものもある。栄養豊富ですくすく育っているときには花を咲かせたくないらしい。子孫を残す必要がないからに違いない。一方、ヒトのからだは飢餓に対応できるように適応してきた。飽食は逆にからだをむしばんでしまう。たくさん食べ

てあまり動かない生活がもたらすさまざまな疾患は、生活習慣病と呼ばれ、上記のことを如実に物語っている。私たちは何かに餓えているとき、驚くべき力を発揮することを知っている。現状に満足せず、妥協しないで追い求めることによって、はじめて大きな花を咲かせることができるのではないだろうか。

(臼井永男)



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp/hp>
ISSN 1343-3369

R100